

福祉のひろば・わいわいスペースに参加して

10月25日(日)は朝から強風が吹き、のぼりや機材などが飛ばされ、開会の挨拶でも怪我のないようにとの言葉が出るほどでしたが、お昼近くには風もおさまり、日差しが眩しいほどに回復してきました。

家族連れ、子供達、若い男女のグループ、車椅子の方達と出足よく、私達がお手伝いをしている「けんちんそば」「チュロス」「キャラメルポップコーン」売り場も活気が出始めました。

恒例イベントのクイズが始まり、軽妙な司会進行で6グループが出題しました。私達、なごみは「傾聴」という意味を子供達に分かってもらうことは難しいと考え「正しい聞き方は？」という内容にしましたが、真剣に考えて答えを書いている姿を見て「聴くことの大切さ」にも、少し気づいてもらえたように受け取れました。

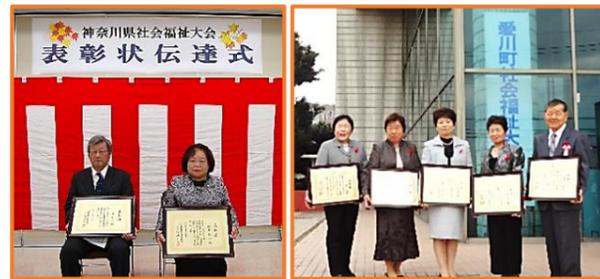
耳+目+心を使って相手に寄り添いお話を聴くスキルは家族や隣人、友人等との会話にも大切なものです。今は愛川町の高齢者施設や病院で活動させてもらっていますが、今回のような福祉の広場で「傾聴」という言葉を知り、興味を持って頂けたらボランティアの理解に繋がれるのではと感じた一日でした。

☘ 傾聴ボランティアグループ なごみ 梅崎 桂子



10月15日(木) 第64回神奈川県社会福祉大会受賞者 (敬称略)
神奈川県社会福祉協議会 会長感謝
愛川町食生活改善推進団体 味彩会 関戸 歌子
神奈川県社会福祉協議会 会長表彰
あシボ(愛川シニアボランティア)

10月31日(土) 第34回愛川町社会福祉大会受賞者
愛川町福祉表彰、福祉功労表彰
愛川町食生活改善推進団体 味彩会 齋藤 君代
愛川町社会福祉協議会表彰・善行者感謝
愛川町食生活改善推進団体 味彩会 松村 美恵
愛川町録音ボランティアグループ かえでの会 杉山 由紀子
あシボ(愛川シニアボランティア) 村川 博
愛川町食生活改善推進団体 味彩会 (金品寄附)



平成27年度受賞された方

編集後記

「愛川ボラ連だより」は、平成20年3月に第1号を創刊し、今月号で節目の第10号を発行することになりました。

毎号、いろいろな形で様々なボランティアグループの活動を紹介しています。昨今、地球の異常気象で猛暑日が続いたり、夏なのに11月頃の気温になったりしています。不幸にも地震、火山の噴火、暴風雨などの自然災害に遭遇し被害を受けた時、ボランティアの助けなくして復興はまなりません。愛川町では、どのボランティアグループも和気あいあいと楽しく活動しており、地域社会に貢献できるよう努力をしています。

貴方も身近にある愛川町のボランティア活動に参加してみませんか。味彩会 尾崎 照代

愛川ボラ連だより

愛川町社協

検索

バックナンバーをネットで閲覧できます

愛川町ボランティア連絡協議会
愛川町角田257番地の1
(町社会福祉協議会内)
☎ 046-285-2111

「遠く神奈川から本当に有難うございました。皆さん方同様、東北で頑張っている私たちのことを忘れないでくださいね。」あの忌まわしい東日本大震災から3年目の2014年3月27日あシボのメンバーで震災復興支援活動の一環として宮城県石巻市周辺の小規模介護施設の車椅子修理整備を実施しました。2年間で都合6回に渡る現地活動の最終日

に、施設の皆さんから掛けられた言葉です。

現地の皆さんは時間の経過と共に次第に忘れ去られてしまう事を恐れているのです。

近年異常気象とも言われ、想像を絶する大災害が各地で発生し被害も甚大なものに変化しており、これを通例化させてはならないのですが、自然災害だけはどうにもなりません。しかし人間には知恵があります。

東北石巻とあシボ

仲間募集

あシボ 三澤 保彦

第一線をリタイヤした男性だけのボランティア組織で「あシボ」というグループが誕生して今年で11年目に入りました。これからの高齢化社会で独居者や動きのままならない方、障がい者への支援活動を行い、また子供達に昔遊びを伝え、合わせて仲間の親睦と健康維持に努める、これが我々のボランティア活動の趣意です。活動の柱の一つに車椅子の

修理整備があります。この活動を開始してから5年、町内各施設の車椅子累積整備台数は2,000台近くになりました。

その他、庭の手入れ、大型家具の移動や処分、家屋備品や電気の小修理など、男手を必要とする活動はいくらでもあります。このような活動に興味の有る方は是非一緒に良い汗をかきませんか。



石巻市仮設住宅にて
車椅子点検整備活動



庭の手入れ、障子貼り
網戸張替、家具移動等



平成27年度

ふれあひ広場

～友情の輪を広げて～



交流ゲーム

9月12日(土)、9時30分から田代運動公園でふれあひ広場が開催されました。

連日の長雨で天気が心配されましたが、当日は晴れて木陰に入るとさわやかな風で、この時期としては過ごし易い気候でした。

18の福祉団体やボランティア・企業等の参画・協力のもと、模擬店や16種類の交流ゲームが開催され、子どもから年配の方まで楽しいひとときを過ごすことができました。

私たち録音ボランティアグループ「かえでの会」は、民生委員の方々のご協力のもと、「大声コンテスト」と「ねらってねらって」のゲームを用意しました。

「大声コンテスト」は、デシベル測定器で声の大きさを測定しますが、子どもは勿論のこと、大人の方々も夢中になり、再度挑戦という姿が多く見られました。

「ねらってねらって」は、大きな丸いネットの中に、会員による手作りボールを手で投げ入れたり、羽根つきボールをクラブで打つ等、それぞれの力量に合わせて挑戦できるので大好評！

かえでの会の会員は、目の不自由な方々の自宅まで、役場の方の運転する車で送り迎えをし、食事やゲームなどの誘導をしました。

目の不自由な方々は日頃、運動不足になりがちですので、皆さん積極的にゲームに参加され、広い運動場をたくさん歩き、とても満足されました。また、知り合いの方々との出会いで会話も弾み、和気あいの雰囲気を楽しんでおられました。

録音ボランティアグループ「かえでの会」
石井 靖子

愛川町ボランティア連絡協議会加盟団体の紹介です
連絡先：社会福祉法人 愛川町社会福祉協議会
☎ 046-285-2111 (内線 3793)



愛川町食生活改善推進団体 「味彩会」



各種イベントに参加し、生活習慣病予防、食育および高齢者の食に関する活動をしています。隔年開催される養成講座に1年間受講して入会していただきます。現在47名の会員が活動しています。皆様の入会をお待ちしています。

マジック愛川クラブ

毎月2回の例会とマジックを通したボランティア活動をしています。



10名位から数百名の観客の前でマジックショーを行います。

「学ぶことが多かった 視察研修」

10月3日(土)、秋晴れのもと、愛川町ボランティア連絡協議会のメンバー25名で、東京お台場にある「東京臨海広域防災公園」に視察研修に行ってきました。

この施設は、首都圏で大規模な地震災害等が発生したとき、国や地方公共団体等の緊急対策本部が設置され、公園全体が広域的な指令機能を受け持つ場所になります。また、休息・休憩できる公園、防災訓練や防災を身近に感じながら楽しく学ぶことができる複合施設となっています。

体験を通して学んだことは、「自助」まず自分の身を守る、「互助」自分達で協力しあ

いながら助け合う、「公助」公的支援を待つということでした。そして、被災した場合の生存率は、一般的には3日間(72時間)だそうです。72時間をどう生き抜くかが大切だと感じました。

また、先の地震で被災された新潟県小千谷市の方が、被災の様子について紙芝居を通して語ってくださった事が印象的でした。大変良い体験をさせていただきました。

愛川レクリエーションクラブ
加藤 秀子

「自助」
まず自分の身を守る

「互助」
自分達で協力しあ
いながら助け合う

「公助」
公的機関による支援



愛川レクリエーションクラブ

「レクリエーションの楽しさを届けよう」

を合い言葉にボランティア活動を続けて、今年で36年目を迎えました。

愛川国際交流クラブ

日本語教室を中心として交流事業をしています。参加、協力していただける方を募集しています。

